香葉会ニュース

昭和53年6月1日発行

―― 学院長に柳生先生 ――

本学院を代表する最も重要な「学院長」は富田前学院長が退かれて以来、代行という形で数年間未決定のままでありましたが、今春、柳生直行関東学院大学文学部教授が院長に就任され、去る四月三日関東学院中学校小講堂において就任式が挙行されました。

柳生先生は、昭和二十七年四月に短大の専任教授として赴任されました。そして昭和三十三年大学経済学部に移籍され、図書館長・文学部長・副学長等を歴任されました。短大には講師として引続き二十五年間にわたり教鞭を執って来られ、卒業生には、なじみ深い先生であられます。この度のご就任には、香葉会会員一同、心からの喜びを申し上げ、期待を致しております。アメリカ留学から戻られてI・C・Uで研究をしていらした先生が初めて颯爽と短大に現われた時は、未だ独身のステキな青年学者で学生の人気の的でした。今や、おつむに霜をおいて、「院長らしいのは頭だけ」等とおっしゃいますが、学究と信仰に生きてこられた先生にふさわしいお役であるかと存じます。就任式でのご挨拶で、牧師であられたご尊父が常日頃『どんな事でも頼まれた事は、神様が与えて下さった仕事と思って喜んでお受けし誠心誠意つくすように』との言葉を思いおこし、この役をお受けすることにした。学院を愛する事では人後に落ちないつもりである。皆様の祈りによって支えて欲しい…という意味のことをおっしゃったのが印象的でした。先生の奥様は英文科二回の卒業生でピアノ・エレクトーンの名手でいらっしゃいます。先生は教会をお持ちになって毎週説教をなさいますが奏楽をされるのは奥様で、先生の日頃のご活躍を蔭でしっかりと支えておられます。院長は大変な激務と伺いましたが、ご健康で立派なお仕事を果されますよう、お祈りしたいと思います。おめでとうございます。

（会長　古城房子）

念願の名簿が誕生！

―申し込み受付中―

香葉会の大切な仕事の一つであり、又同窓会会員相互の親睦をはかる上にも必要な名簿が、やっと出来上りました。最初の仕事である住所録カード作りに着手したのは、もう二年も前になりますが、カードが出来上る迄には、住所変更、移転先不明、改姓等に依る手直しも数多く、色々な苦労の末、ようやく完成にこぎつけました。短大事務局をはじめ多くの方々の骨身を惜しまないご協力に心から感謝申し上げます。不備な点も多々あり、ご不満もあるかと存じますが、皆様のご協力を得て更に正確なものにしてまいりたいと思います。住所、姓の変更の折にはお忘れなく、学校にご連絡下さい。名簿の空欄や誤記はぜひ修正して参りたいと心がけておりますのでご協力をお願い申し上げます。お友達の中でも御存知の方がありましたら御一報下さい。一人でも多くの方がお求め下さり皆様の相互のご連絡にお役立て戴ければ幸いです。（副会長　相吉典子）

一冊二千円・送料三百円です。

香葉会のつどい

新緑の美しい季節になりました。皆様にはいよいよ、お健やかにお過ごしのことと、およろこび申し上げます。

さて、この度下記のように本年度の総会をかねて、卒業生のつどいを開きますので、ご案内申し上げます。お誘い合せの上、ぜひ多数お出かけ下さいませ。

記

日　時：昭和53年6月25日（日）
p.m. 1：30～3：30　受付1：00より

会　場：相生6Fレセプションホール
横浜市中区相生町4－67
TEL.　045－681－1661(代)

会　費：2,000円

出　席：準備の都合上、6月17日までに同封のハガキでご連絡下さい。

議　題：1．昭和52年度　事業報告
2．昭和52年度　収支決算報告
3．会則変更（案）
4．昭和53年度　事業計画（案）
5．昭和53年度　収支予算（案）

尚、当日のプログラムに、関東学院長柳生直行教授のお話を、お願いしてあります。

昭和53年6月

〒236 横浜市金沢区六浦町4834
TEL. 045－784－1491
関東学院女子短期大学同窓会
香葉会会長　古城房子

「死と虚構」相川高秋著紹介

この度、短大元学長で香葉会名誉顧問をして下さっておられる相川高秋・関東学院大学文学部教授の「在職五〇年記念文集」が刊行されます。先生の講演・講義のすばらしい名文は定評のある所ですが、この論文集は相川哲学による文学理論を通し先生の処生と、ものの考え方を示す、記念すべき文集になる筈です。

――内容――

○序章「わが生と死と愛と」
○文学論（日本文学、外国文学）
○社会評論「もののあわれの社会的意義」「ルネッサンスの哲学」等、その他随筆十五篇

一読をぜひ、おすすめします。

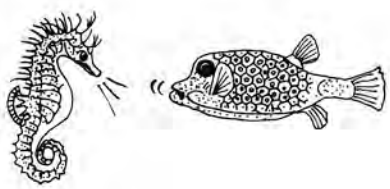
六月中旬、出版予定！

ご希望の方は、総会出欠の返信用ハガキでお申込み下さい。

「死と虚構」A5版約二三〇頁
三〇〇〇円予定（送料別）

購売部開設

短大が逐次、室の木校地に移りつつありますが、この近辺には以前から商店が少なく、学生教職員共に何かと不便なことが多いので香葉会による売店運営について母校より相談がありました。そこで種々と検討、打合せの結果、去る四月より「香葉会購売部」として、短大校舎内に売店を開設いたしました。扱う品は学生生活上、必要と思われる文具品や飲食物、その他細かな雑貨です。営業時間は九時半より四時頃までです。出来るだけ安くしたいと努力しておりますので、おついでの時にご利用ください。



めだかの会ひらかれる！

国文科七回生（昭和四十九年卒業）の学年会、誰いうともなく、（かわいい？）めだかの会。ある人いわく、救いようがないからめだかなのか、群れたがるからめだかなんだな—。

五十一年五月九日（日）、なつかしい顔が五十五も、集まりましたよ。大城・杉野・日向先生が、いらっしゃいました。短大時代の想い出話に花を咲かせ盛会のうちに終わりました。また、近いうちにお会いしませんか。

合同同期会の報告

秋もたけなわ、十一月二十六日土曜日の午後、短大英文科一・二・三回卒業生達の合同同期会の集りを持ちました。お招きする事となりました柳生先生の御多忙なことを考え、足の便を第一にと、横浜駅西口・天理ビル内・レストラン・スコットランドにいたしました。そもそも話の起りは、私が鎌倉で偶然、柳生先生にお会いし「二回の級会を…」と云う事で考え出したのですが、小瀧先生も御出席下さる事になり、古城さんにこの事をお話ししてお誘いしましたところ、三回生の方が、門根先生が三月、捜真女学院定年退職されたのを機に同期会を計画しているとのことでした。そこで、合同にすれば、一度に三人の先生方をお招き出来るのでは、との事で実現したのです。

当日は、あいにくの小雨模様の一日でしたが海霧（ガス）のかかっている横浜港を見下ろす窓を背に、出席者二十三名先生方を囲んで、昼食をとりながら、先生方のそれぞれのお話に、また忘れかけた上級生・下級生のお顔と名前を思い出し思い出の糸を手繰り短いながら楽しい、ひとときを持つことが出来ました。久し振りに少しはお顔なじみもある三回の方々のお話などなど……。尽きぬ思いをあとに残し記念写真を撮り、またの再会を約して散会致しました。今、記念写真を見ながら、この報告を書いております。今後もこうした会を、また計画したいと思いますので、皆様のご協力をお願いして、筆を置きたいと思います。

（英文科二回　青木千恵子）

※尚、英文科四回生の同窓会については、紙面の都合により、残念ですが、次号へ回しました。どうか御了承下さい。

ハガキ短信

（昨年の総会出欠通知から無断で転載しました）

私事、今年は銀婚を迎えました。第一回卒生では既に何人かです。

＊佐藤久子（井上）24専家＊

今になってお冬ごもりながらようやく小原流家元教授の資格を得ました。英語の方は忘れる一方です。

＊並木高代（浅場）24高英＊

朝夕とカッコーの鳴く信州に住んで十九年になります。（略）長女は今、短大に通い青春時代を楽しんでおります。私も又、若くなりたいと思ってますが、無理なことです。

＊中沢冨士子（斉藤）25高英＊

長女は今年高校に、長男は大学に入学、私が三春台に通っていた年代に達してしまいました。

＊藤田功子（平戸）28英＊

早稲田大学院文学研究室に籍をおき研究のかたわら、仕事を演出、振付、アート・ディレクト指導におき、トータル・テアトルに就いてマイム、美術等の表現活動を続けております。

＊松岡梅子　英30＊

卒業後二十年、もう娘の大学受験

を心配しながら、自分の学生時代を振返っている今日この頃です。

＊若葉二美子（小島）31英＊

相変らず虎の門病院臨床化学にアルバイトをして居り、二、三ケ月に一週間位づつ釜石に帰る生活をして居ります。

＊菊地洋子　33家＊

不惑を過ぎ、少しは安定した生活が築けるかと思っていたが、現実は益々仕事に追われる毎日であり更に子供は親の意に反し手に負えなくなるばかりです。時折、夜学で学んだリーダーを紐解く時、心が洗われる思いがいたします。

＊河名義弘　37英Ⅱ＊

娘が二人、上が小学二年生になりました。すっかり田舎に落着き横浜が遠くなりました。早く子供も大きくなってくれれば上京出来る事もあるかと思いますが……

＊鹿渡泰子（谷川）38英＊

第二部は影が薄いようで残念です。孫が二人となりましたが、ガンバッております。

＊樋口幹雄　39英Ⅱ＊

現在小六、小二の男の子二人です。この二人に夏は少年の船で北海道へ七泊八日の旅をさせて「かわいい子には……」という様にさせたいと思っています。私は油絵とお茶を目下勉強中、主人は釣と碁を楽しんでいます。

＊田中紘子（田中）39家＊

三人の男児にかこまれて毎日太る暇もなく子供達に追い廻されています。

＊古内晨子（石黒）40家＊

主人の勤務の都合で名古屋より車で四十分程の所へ移って参りました。三人の子に振り廻されての忙しい毎日です。（略）短大の頃の友人と会うこともめったになく、全国をあちこち移らなければならないため、慣れる迄の淋しさはいつものことながら、学生時代の楽しさはいつもいつもなつかしく思い出しております。

＊上原加津子（斎藤）40英＊

日本医科大学L.L教室及び同附属看護学院で教師をしております。今春、法政大学第二文学部英文科に入学し老骨にムチ打って頑張っています。

＊堺典子（桜井）42英＊

卒業後一年目に仙台にある身体障害者職業訓練校軽印刷科に一年学び、花巻の印刷会社で六年間写真植字のオペレーターとして勤務しました。今年二月花巻教会に於て結婚式を挙げ現在の処は主婦業に専念しています。

＊斉藤一恵（小岩）44英＊

今月末に二人目出産の予定、ヤンチャ息子の「ダッコシテ！」に閉口しています。

＊土屋廣子（氏家）46英＊

私も十一月で二十五才、四分の一世紀という過ぎて来た思い出と共にこれからの人生の不安もちょっぴりな、なんとなく心の重さというか、そんなものも感じる年頃となりました。

＊石井三恵子　48国＊

今年結婚してやっと家事にも主人にも慣れた所です。それなのに二ケ月も主人は海外出張……。一人で淋しいけれどもネズミにひかれない様に頑張るつもりでおります。

＊三木雅子（森）48国＊

会社勤めも四年目を迎えました。会社では在学中に取得した司書免許を生かせる資料室で本・マイクロの整理に追われています。

＊鷹取みき　49国＊

とうとう「大根足先生」とアダナされるようになり、それでも「大根はね、色が白くて、きめこまやかなのよ」と言って内心「こいつめ」と思いながらも、乙女はそしらぬ顔をしています。

＊熊谷節子　50食＊

当方、元気でやってますといいたいのですが幼児教育のむづかしさや責任の大きさ、はたでみるよりも大変な雑役など、二年目にして早くも悩んでいます。

＊武藤和江　51幼＊

これといって変わったことはないですけど、毎日忙しく……。仕事が終ると自動車学校に行き、バレーボールの練習に行き、日曜日は試合。このところ自由な時間がほとんどないんです！では、みなさんによろしく！

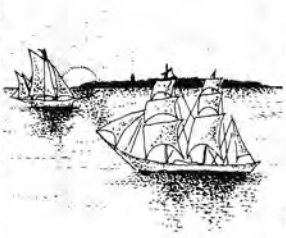
＊大野洋子　52家＊

次の方々が闘病生活をされております。覚えてお祈りください。

臼井智子様（51家卒）

西村恵子様（菅野・30家卒）

母校ニュース



―家政科の変遷と展望―

家政科は短大の前身、女専創設当初から存在したが、その施設はまことに貧弱であった。昭和三十七年および四十年にようやくできた短大専用校舎に初めて被服構成、調理実習室が設けられたが、しかし、長い歴史をもつ学科にもかかわらず、私が赴任した昭和四十二年には化学系実験室、研究室は全く無かった。

それが昭和四十三年短大本館建設時ささやかな実験室が造られた。しかし、その後に設けられた栄養士課程に必要な食品加工実習室や集団給食実習室はあいかわらずプレハブ教室の改造であり、また、被服科学実験室も旧洗濯室を使用するという状況であった。

今度、室の木校地短大1号館一～四階に実験実習室が設けられ、ようやく家政科の教育として、はずかしく無い設備ができた。実に家政科としては長い年月であった。

家政科の施設は以上のように整えられたが、その教育目的は家政学による人間教育、すなわち、女性として高度な教養教育であり、これは昔も今も生きている。ただ、時代の要請により昭和四十四年に家政専攻と食物栄養専攻に専攻分離を行った。すなわち、従来の家政科教育は家政専攻で行い、食物栄養専攻では栄養管理技術者の栄養士を養成することとした。栄養士教育は家政科本来の目的と必ずしも完全一致するわけではないが、関東学院の建学精神のもと、家政科が果してきた人間教育を職業教育の中に生かすなら、人間性の秀れた栄養士が養成し得ると考え、踏み切った。

一方、家庭生活においても食物栄養に関する知識や技術は年々重視されてきている。そこで食物関係の学問を専門に勉学した家庭人養成の必要を考え、昭和五十四年度から食物栄養専攻に〝食物科学コース〟を設置する予定である。従来の栄養士養成は〝栄養科学コース〟で行うこととした。

食物科学コースでは調理実習や食品加工実習を重視し、かつ、一般家政に関する科目も学ぶことができるようにした。また、家政専攻のカリキュラムは従来から被服構成、被服科学、被服美学の三本柱をもとに被服に比重をおいたが、本年多少手直しの上、尚一層の充実をはかる予定である。

（家政科長　林　淳三）

（調理実習室）

テニスコート　クラブハウス完成

——時田先生名誉教授に——

昭和五十三年三月二十九日付、関東学院大学名誉教授の称号を授与されました。

大学の方は今春で退職されましたが、短大では、あいかわらずお元気で、講師を続けておられます。尚一層の御健康と御活躍とをお祈り致します。

——御園先生大学文学部へ——

本学短大英文科の御園和夫先生が、三月短大を退職され、関東学院大学文学部へ移られました。短大では約十年間、いろいろな面で御活躍下さいました。学生の良きアドバイザーとして、香葉会の幹事長としても、特にお世話になりました。卒業生一同、その御苦労と御努力に深く感謝致しますと共に、今後の御学究に、御精進下さいますようお祈り致します。

——冨和美智子先生主婦業へ——

家政科の冨和先生は、三月で退職され、家庭の一主婦として主婦業に励んでいらっしゃるそうです。どうぞ、増々お元気で……。

尚、紙面の都合上、職員の移動は省かせて頂きました。次号「香葉」に掲載致します。

新任の先生方をご紹介いたします。

英文科
蔭山　友行先生
（前任校　東京立正女子短大）

家政科
手嶋登志子先生
（前任校　十文字学園女子短大）

幼児教育科
中田　弘良先生
（前任校　関東学院大学）

香葉会事務局変わる

香葉会の事務は昭和五十二年一月から伊藤玉枝さんのご奉仕により処理してまいりましたが、香葉会の財政事情が悪化したため、残念ながらこの三月でお辞めいただきました。このため、事務処理は母校のご協力により短大の庶務課で扱っていただくことになりましたので、今後のご連絡、ご意見等は庶務課にお寄せください。

★雑報らん

◎昨年度賛助金のこと。
（総額　一九六、四五〇円）
（総人数　一二六名）
厚くお礼申し上げます。
御寄附頂いた方の御氏名は、紙面の関係で今回、おのせ出来ません。次回「香葉」に発表させて頂きます。どうぞ、今年度もひきつづきよろしくお願い致します。

◎「香葉」では、皆様からのおたよりを、首を長くして待っております。どうぞ、どしどしお寄せ下さい。編集部では、お送り下さった原稿はすべて目を通し、逐次掲載していきたいと思います。氏名にはフリガナも忘れずに。

編集・発行
香葉会
横浜市金沢区六浦町四八三四
関東学院女子短期大学内
〒236　☎〇四五（七八四）一四九一